

ハイブリッド参加型バーチャル株主総会のご紹介

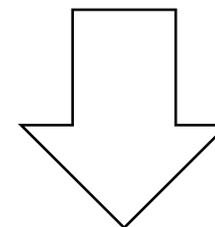
2019年11月21日

グリー株式会社

総会中、リアルタイムでの双方向コミュニケーションを実現



左側の画面①で総会の様子を見ながら、右側のフォーム②より会社へコメントを送ることができる仕組みを導入。



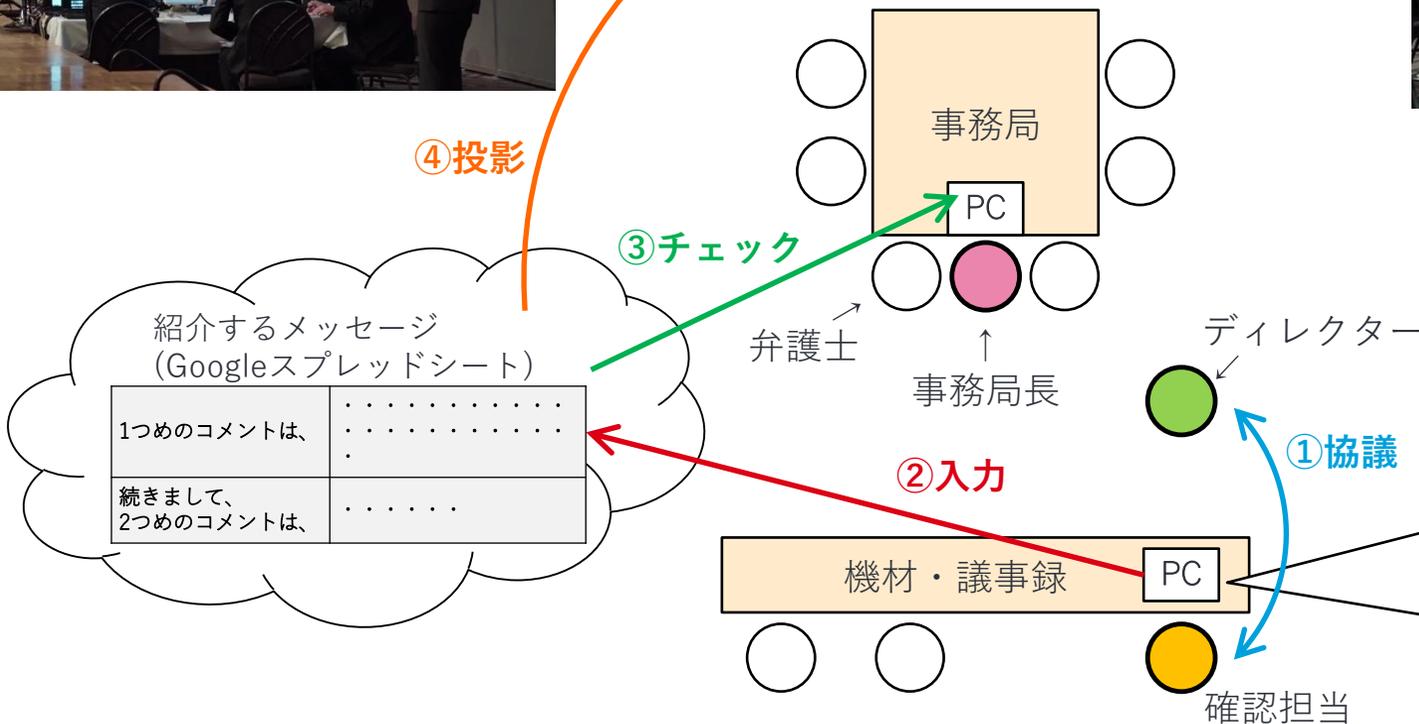
より多くの株主に総会への参加機会を

↓
対話の充実化

・導入時に検討した主要な事項のうち、ハイブリッド参加型に特有の項目は約1/3程度であった。

- * 「★」印がハイブリッド参加型に特有の項目。
- * 当社では、総会のストリーミング配信自体も初の試み。

<p>システム仕様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委託先業者（ツール）の選定 ★ ・配信の公開範囲（株主のみ閲覧可 or 株主以外も閲覧可） <ul style="list-style-type: none"> * 公開範囲に応じたセキュリティの設計（→予算に影響） ・配信画面全体のレイアウト ・コメント機能の詳細設計 ★ <ul style="list-style-type: none"> * UI設計（コメントフォーム自体の見せ方、注意/免責文言・・・e.g.質問権） * 投稿されたコメントを他の閲覧者にも見せるか否か * 開会前（配信開始前）にもコメント送信できるようにするか否か（≡事前質問） * 投稿されたコメントの管理画面の仕様、操作方法の確認 ・配信前後の画面設計（切替タイミング、表示する内容） ・オプション機能の追加検討（→当社ではアンケート機能を追加→アンケート項目の検討） ・視聴に関するFAQの作成、FAQ掲載場所の調整 ・当日の問い合わせ先の設置有無（設置する場合は担当部門）の検討（→当社では配信業者に委託） ・問い合わせ先の掲載場所、掲載文言の調整
<p>配信当日の 段取り等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントを紹介する場合/しない場合、それぞれのパターンのシナリオ作成 ★ ・総会会場との調整 <ul style="list-style-type: none"> * 電源、通信回線（場所、容量）、機材設置場所、必要備品 * 搬入、搬出の時間場所 ・カメラワーク（→当社ではカメラ2台を利用し、シナリオに沿って切替を実施） ・投稿されたコメントを事務局へ共有する方法の検討（→当社ではGoogleスプレッドシートを利用） ★ ・総会中に紹介するコメントの選定方法（担当者、選定基準等） ★
<p>配信当日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配信状況の随時チェック ・コメント投稿状況の随時チェック（→当社では専任スタッフを1名配置（兼 配信状況チェック）） ★ ・投稿されたコメントから、紹介するコメント候補を選定し、事務局へ共有 ★ ・質疑応答の進行状況を踏まえた、コメント紹介の実施可否を事務局にて判断 ★



コメント管理画面

受信日時	株主番号	メッセージ
9/25 14:25	99999999
9/25 14:32	88888888

- ・ 「出席型」を実施する場合、発行会社がそれぞれ単独でシステムを用意するのは非常にハードルが高い
 - * 株主名簿管理人側のシステムとの連携、繋ぎ込みが必要であり、各社対応では非効率かつ費用が嵩む
 - * 様々なパターンが許容されることは、各社の株主総会の在り方をそれぞれ検討するのに有益ではあるが、それぞれのパターンを各社単独で検討、検証し、システム仕様を決定し開発をすることは困難。

◆検討が必要な事項の一例

出席・採決	<ul style="list-style-type: none">・ 株主名簿管理人側のシステムとの連携、繋ぎ込みが必要<ul style="list-style-type: none">* 事前行使している株主が再度行使をした場合、事前行使の情報を削除/上書きする必要がある。・ 株主本人の認証が必要。さらに、参加型と比較してより高いセキュリティが要求される。 (→必要予算が嵩む)・ 出席カウントについて、どのような仕様とするのが最適かの検討工数が多い<ul style="list-style-type: none">* 許容されるパターンが複数ある場合、票読みだけでなく、システム開発工数の側面においても最適解を探す必要がある(必要期間、予算等)。システム開発に関しては、各パターンの見積を取得するためには、ある程度設計を細かく詰める必要が生じる。
動議への対応	<ul style="list-style-type: none">・ 動議を行えるようにする必要がある場合、構築実装すべき機能が細かく多岐に渡る<ul style="list-style-type: none">* 会議の進行状況に応じ、動議メニューの制御が必要(実質的動議/手続的動議)* 動議の濫用を抑制する仕組みが必要* 議案の修正動議が発生し、採決が必要になった場合のシステムの作り込み、 etc.....

→ 推奨モデルケースの提示、それに基づく共通プラットフォームの開発が望まれる